

上野学園大学 古楽研究室演奏会

ローレンス・ドレフュス氏を迎えて

Guillaume de Machaut	Biaute qui toutes autres pere Dame ne regardes pas
Alfonso Ferrabosco I	Fantasia a4
William Bryd	Miserere a4 Fantasia a4
Claude Le Jeune	Debat la nostre trill' en May Fantaisie 2 Te ne l'enten pas
Elway Bevin	Browning a3
Richard Mico	Fancy no. 19, 10, 7
Orlando Gibbons	Fantasia a2 Fantasia a3
Matthew Locke	Flat Consort No.1
Henry Purcell	Fantazia no.3 a3 Fantazia no.11 a4
J.S.Bach	Contrapunctus 1, 2 BWV 1080



Lawrence Dreyfus



Shigeru Sakurai

Miou Origuchi

Aika Shimizu

2019年12月1日(日) 14:00 開演 (13:30 開場)

上野学園 石橋メモリアルホール 一般 3,000円 学生 1,000円

主催 上野学園大学 古楽研究室 協力 音楽事務所アシスト

お問合せ 音楽事務所アシスト 03-3304-9250 office_assist@ac.auone-net.jp



今年度の上野学園大学古楽研究室演奏会では、2017年に英国グラモフォンアワードを受賞するなど今世界で最も活躍しているヴィオラ・ダ・ガンバ コンソート “PHANTASM” の音楽監督、ローレンス・ドレフュス氏を招いて、ヴィオラ・ダ・ガンバの響きを存分に味わっていただく演奏会を企画しました。アメリカ東部の音楽一家に生まれたドレフュス氏はジュリアード音楽院でチェロを学んだ後ブリュッセル王立音楽院でヴィオラ・ダ・ガンバを学び、独奏者として世界的に活躍する一方、音楽学者として “Bach’s Continuo Group” “Bach and the Patterns of Invention” “Wagner and the Erotic Impulse” 等の著者としても高い評価を受けており、これらの著作によって 2002 年にはブリティッシュ・アカデミーのフェローに推挙されました。長らくオックスフォード大学モードレン・コレッジの教授を勤めていたドレフュス氏は 2015 年から住まいをベルリンに移して PHANTASM と共に新たな活動を展開しています。現代を代表する古楽器奏者であるドレフュス氏は、一方では教条的な古楽主義を鋭く批判する厳しい論客でもあります。今回が三度目の来日となるドレフュス氏、これまで日本の古楽界をリードし続けてきた上野学園で新しい「古楽」の響きを聞かせてくれることでしょうか。



櫻井茂 学習院大学及び東京藝術大学卒業。コントラバスを笠原勝二、吉川英幸、西田直文、江口朝彦、ヴィオラ・ダ・ガンバを大橋敏成、ローレンス・ドレフュスの各氏に師事。また芸大バッハ・カンタータ・クラブにおいて小林道夫氏の薫陶を受ける。独奏者として国内各地、ヨーロッパ、アメリカ、韓国等で活動。ドレフュス主宰のコンソート「PHANTASM」には1994年の創設プロジェクトに参加以來度々客演する。ヴィオラ・ネ奏者としてはバッハ・コレギウム・ジャパン等の古楽アンサンブルに参加。東京藝大、高知大学、慶應義塾大学非常勤講師を経て、上野学園大学准教授、延世大学音楽研究所古楽専門課程特別招聘教授。

折口未桜 上野学園大学短期大学部コントラバス専門卒業後、同大学ヴィオラ・ダ・ガンバ専門へ3年次編入し2014年度卒業。コントラバス、ヴィオラ・ダ・ガンバともに櫻井茂氏に師事。上野学園大学楽器研究室勤務。

清水愛梨 上野学園中学・高等学校においてピアノを浅香郁子、干野宜大の各氏に師事。一方ヴィオラ・ダ・ガンバを櫻井茂氏に師事し高校2年からヴィオラ・ダ・ガンバ専門に転科。現在上野学園大学音楽学部4年次在学中。

上野学園 石橋メモリアルホール

東京都台東区東上野 4-24-12
学校法人上野学園内

JR 各線「上野駅」入谷改札より入谷口から徒歩 8 分
東京メトロ日比谷線/銀座線「上野駅」1 番出口より徒歩 8 分

